

○恩田 威俊¹⁾、工藤 香代子¹⁾、栗原 理¹⁾、上場 理江¹⁾、内山ひろこ¹⁾、岸野 淳二¹⁾、下村 文恵¹⁾、黒川 寛之¹⁾、片山 厚¹⁾、高橋洋一郎¹⁾、野村 香織²⁾

1) 一般社団法人 くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会
2) 東京慈恵会医科大学

【目的】

くすりの適正使用協議会では、外国人患者と医療関係者とのコミュニケーションツールとして、英語版くすりのしおり[®] (以下、英語版しおり)を協力企業と共に作成している。今回、薬局における外国人患者への対応の実態を把握することを目的に、来局する外国人患者の状況、薬剤師の対応及び英語版しおりを含む対応ツールの実態についてアンケート調査を行った。

【方法】

(株)マクロミルケアネットによるインターネットリサーチ
(調査期間:2018年6月15日~6月26日)

【調査対象】

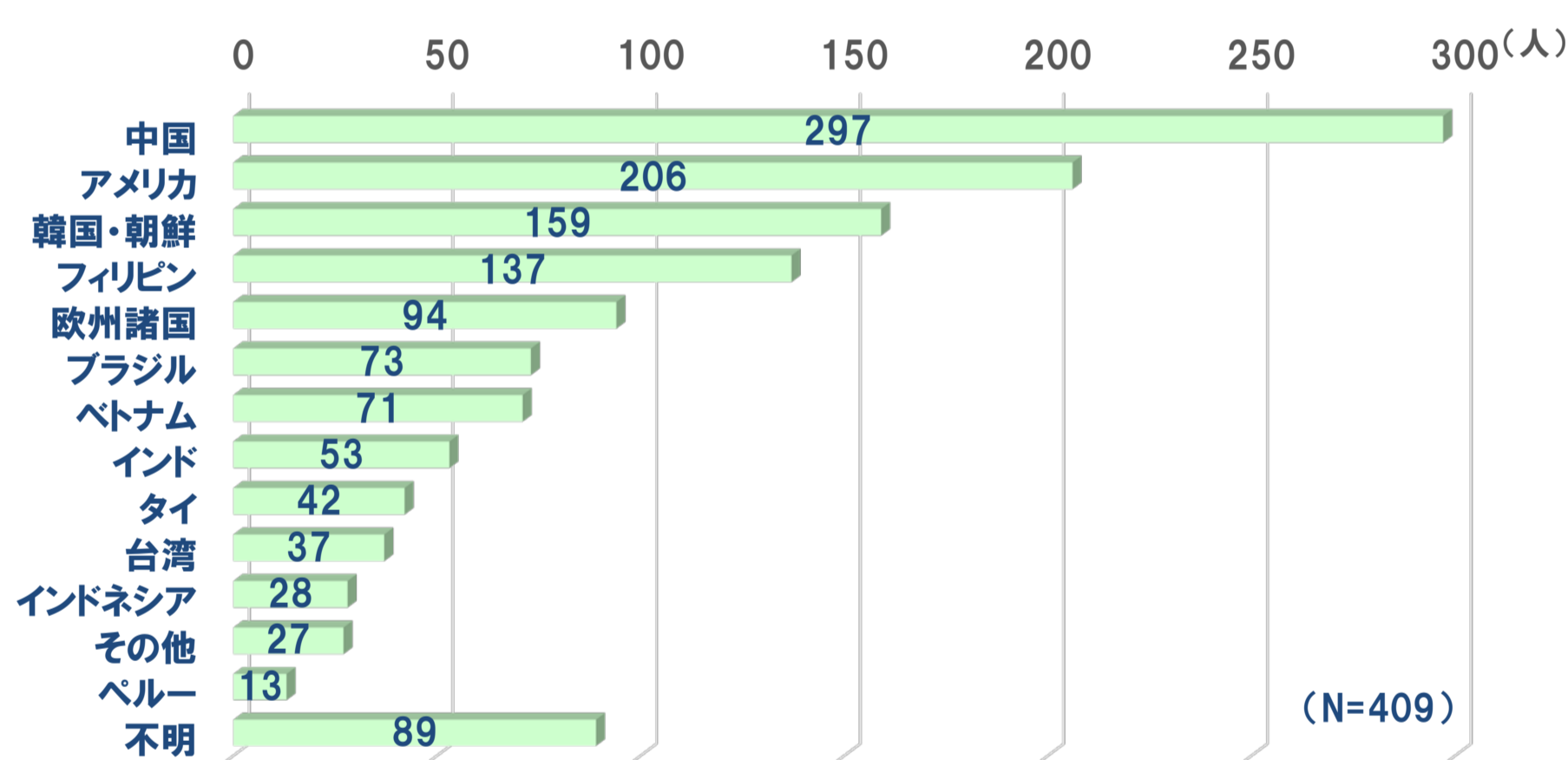
全国の調剤薬局で外国人患者の対応経験がある薬剤師 409名
(男性:142名[35%]・女性:267名[65%])

【結果】

- 調査対象薬剤師409名から回答を得た。薬剤師が対応した外国人患者の国籍は中国が最多、次いでアメリカ、韓国・朝鮮、フィリピン、欧州諸国の順であった。対応頻度は月1回以上55%、月10回以上13%であった。外国語対応可能なスタッフが「いない」は79%、対応に不安を「少し感じている+感じている」薬剤師は88%であった。【Fig.1】【Fig.2】【Fig.3】
- 日本人と比べて外国人患者とのコミュニケーションが「最低限のことしか出来ない+出来ない」は67%であり、処方された薬の説明を「よく+時々している」薬剤師は92%いたが、薬を服用することでの不安や悩みの確認を行っていたのは38%であった。【Fig.4】【Fig.5】
- 95%の薬剤師が英語版医薬品情報を必要だと「思う+少し思う」と回答したが、参考にして英語版医薬品情報が「ある」のは12%であった。必要な外国語版医薬品情報としては英語に次ぎ中国語66%、韓国語44%であった。英語版しおりが役立つと「思う+少し思う」との回答は、英語を話せる外国人患者に対して96%、英語が母国語ではない場合でも68%であった一方、英語版しおりの活用率は全体の7%であった。【Fig.6】【Fig.7】

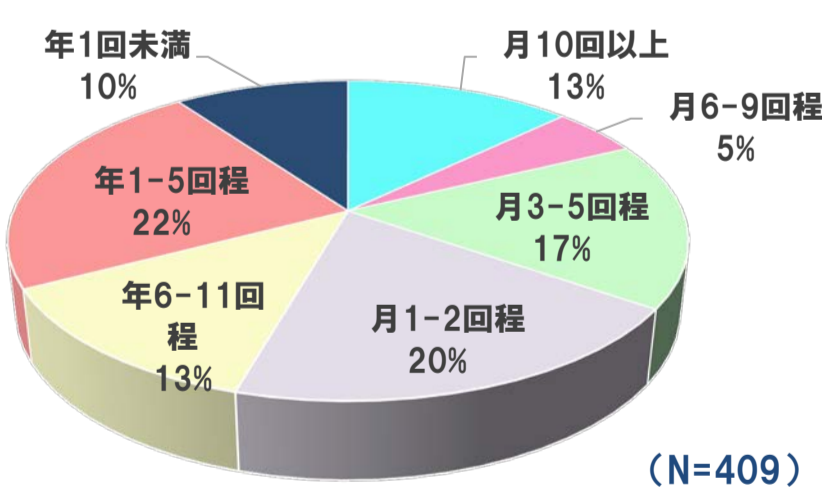
【Fig.1】外国人患者の国籍

Q:今まで対応したことのある外国人患者の国籍(MA: Multiple Answer)

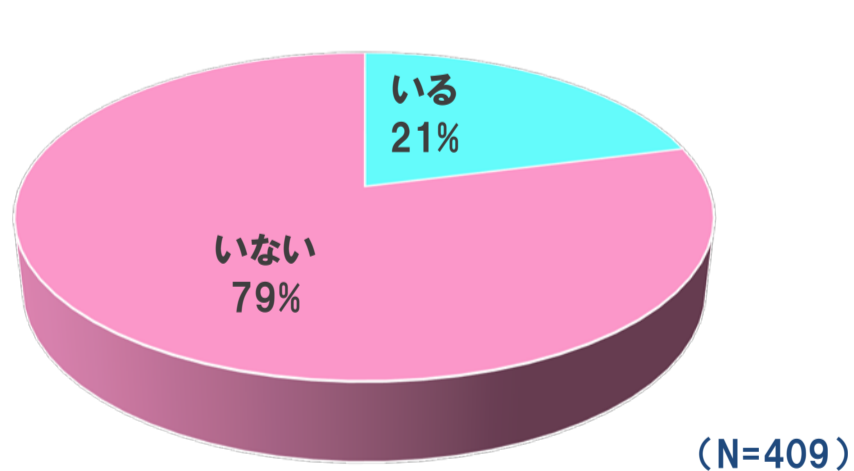


【Fig.2】来局頻度及びスタッフの有無

Q:外国人患者の来局頻度 (SA: Single Answer)

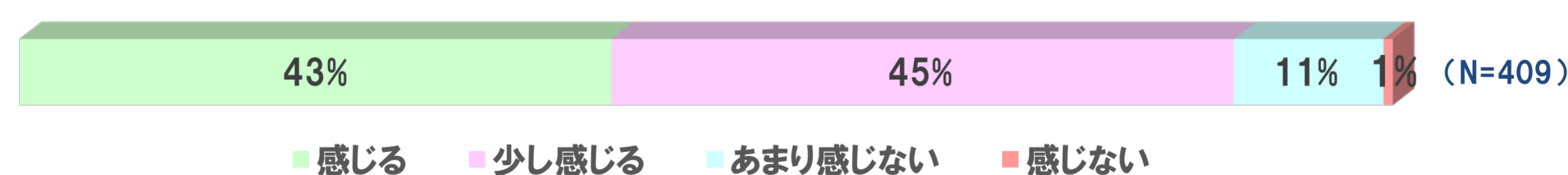


Q:外国語に対応できるスタッフの有無(SA)



【Fig.3】外国人対応への不安感

Q:外国人患者への対応に不安を感じるか(SA)



英語版くすりのしおり[®] <http://www.rad-ar.or.jp/siori/english/>

Medication guides (Kusuri-no-Shiori) for 7,978 prescription drugs are available.

くすりのしおり[®] Kusuri-no-Shiori (Drug Information Sheet)

Search for medicines 海外渡航情報

英語版くすりのしおり

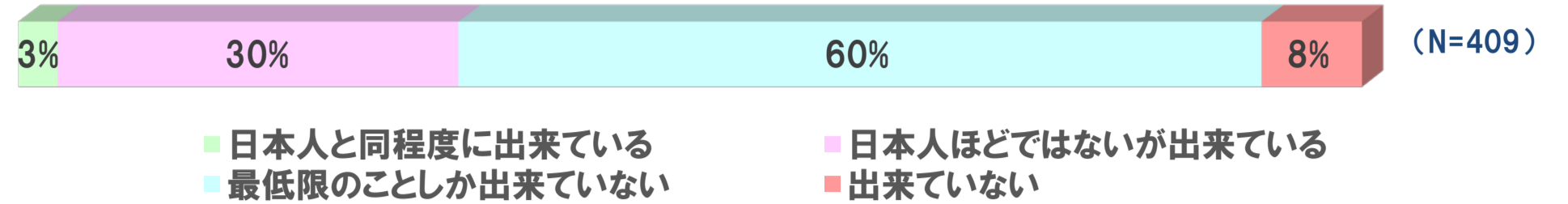
検索コード: 5595

QRコード

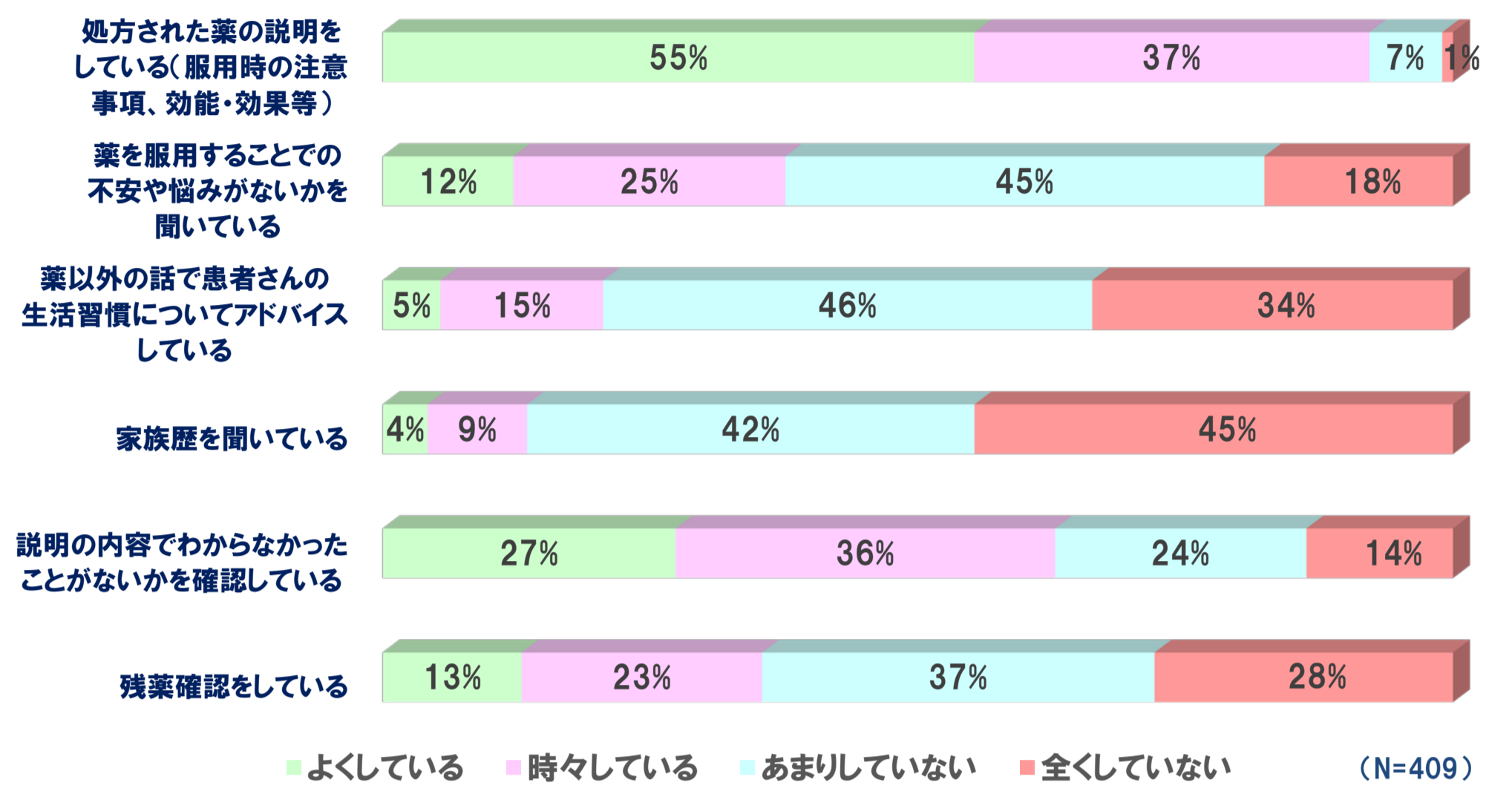
検索コード: 5595

【Fig.4】外国人のコミュニケーションの程度

Q:日本人患者と比べてどの程度コミュニケーションが出来るか(SA)

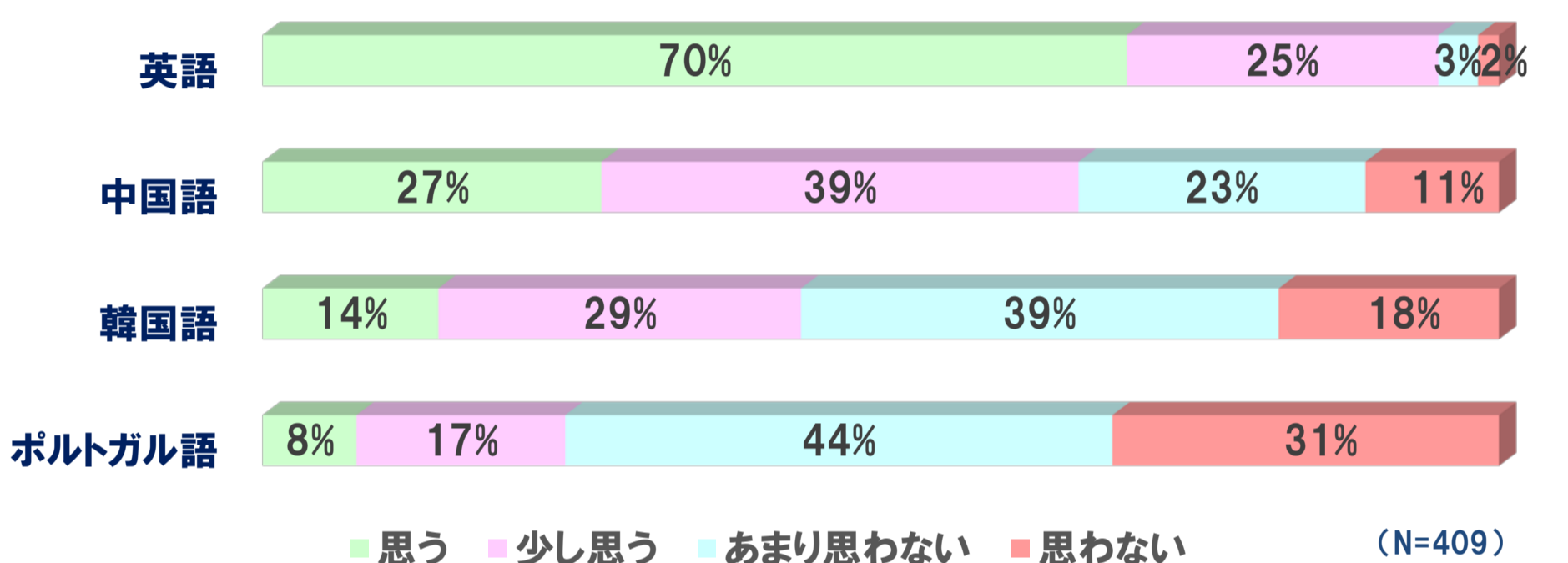


【Fig.5】外国人対応のコミュニケーション内容

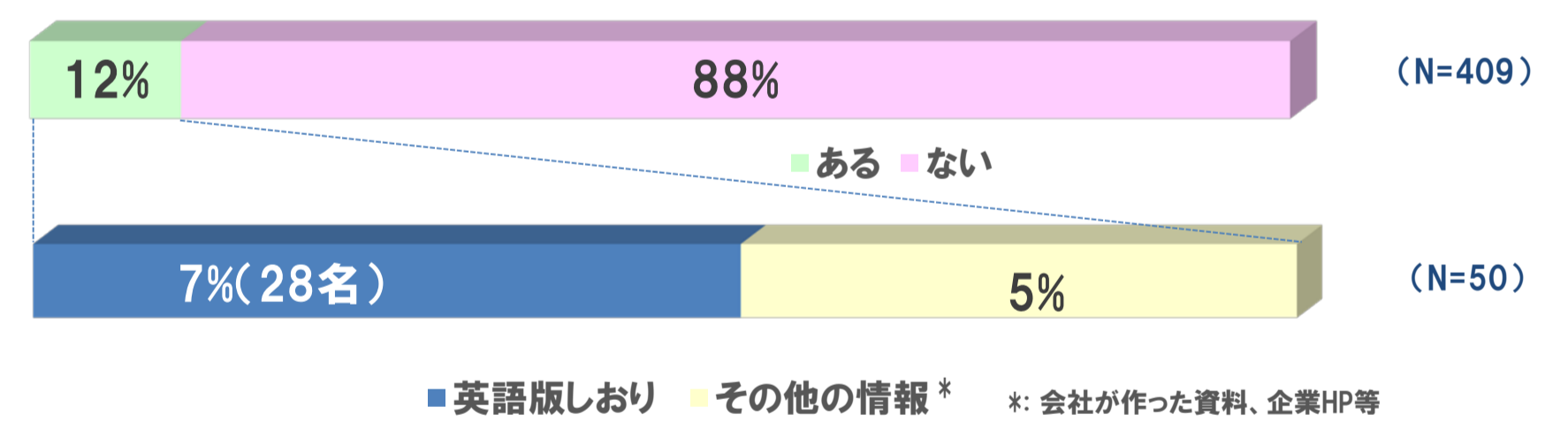


【Fig.6】外国語の医薬品情報資料

Q:下記の外国語医薬品情報は必要だと思うか(SA)

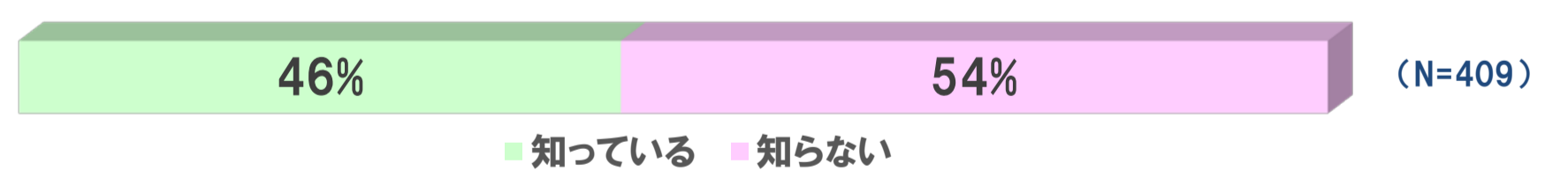


Q:外国人患者に対して参考にして英語版医薬品情報があるか(SA)

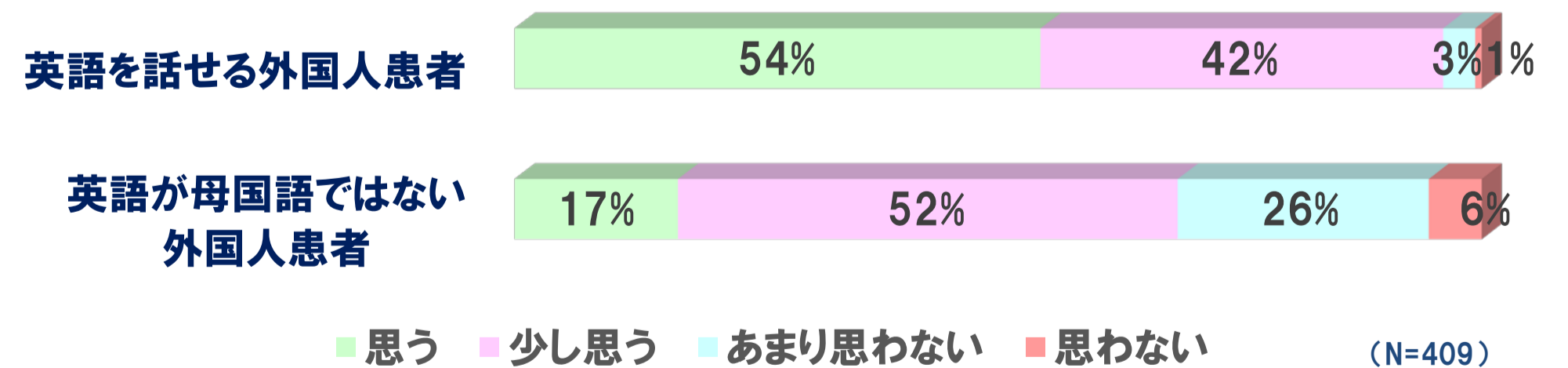


【Fig.7】英語版しおりの認知度・有用性

Q:英語版しおりを知っているか(SA)



Q:英語版しおりは外国人への服薬指導に役立つと思うか(SA)



【考察】

来日外国人の増加や東京2020オリンピック・パラリンピック開催施策の一環として、外国人診療拠点病院の設置等が推進されている。医療現場としての薬局では、外国語対応スタッフの配備やその服薬指導状況は未だ十分でないこと、また、対応ツールとして英語版医薬品情報の必要性は高いが全体的に準備不足と推察された。英語版しおりは役立つツールとして評価されたが、その活用頻度は低かった。本ツールが薬剤師及び外国人患者双方の不安軽減に役立つことを期待し、協力企業と共にその活用範囲のさらなる拡大及び充実を図っていききたい。